

滋賀の文化情報誌
デュエット

Duet

2022 夏 vol.142

特集

守山市ほたるの森資料館

新撰 淡海木間撰 87

ほたる河川

INFORMATION STATION 催し案内 2022 夏

MYBOOK 自費出版物の紹介

SUNRISE BOOK PRESS サンライズ出版の新刊案内

守山市ほたるの森資料館

守山は明治時代半ばからゲンジボタルが多数飛び交う「ホタルのまち」として知られ、その季節には京阪神から多くの観光客が訪れ、賑わいました。

戦後の市街地の拡大などで昭和30年代には姿を消しましたが、平成に入ると行政と市民によってホタルをよみがえらせる取り組みが始まります。その中心施設として開設され、30年余りにわたって活動してきた守山市ほたるの森資料館で古川道夫館長にお話をうかがいました。

立体模型でゲンジボタルの一生を紹介している館内展示。水辺の石の苔などに産みつけられた卵から孵化した幼虫は川に入ってカワニナを食べて成長する。大きくなった幼虫は陸に上がって土の中に土繭をつくり、その中で蛹になって4～5月に羽化し、地上に出る



■ 守山市ほたるの森資料館

住 所 守山市三宅町10 市民運動公園内

連 絡 先 TEL 077 (583) 9680 FAX 077 (583) 9680

休 館 日 火曜日(祝祭日は開館)、祝祭日の翌日(土・日は除く)、年末年始(12/28～1/4)

入 館 料 無料

駐 車 場 114台(市民運動公園)

アクセス JR 琵琶湖線「守山駅」から近江バス「杉江循環」乗車「市民ホール前」下車、徒歩2分/国道8号「宅屋」交差点より西へ約5分、「金森西」交差点右折

取材／編集部 写真／辻村耕司



数が少ないけれども、飛んでいることは確かなので、「復活した」とも言えます。

「ホタルのまち守山」の歴史

— 守山市は、市のPRキャラクターもホタルなんです。

古川 はい。守山市商工会議所がおつくりになった「もーりー」は、名前を言えば、お子さんでも親御さんでもみんな反応するぐらい市民に知られています。一応、当館独自でも「もびか」というキャラクターがおりますので、両方ご愛顧ください。

— 守山とホタルの関わりをたどると、いつぐらいからになるのですか。

古川 江戸時代の末期にはまず宇治川のホタルが有名だったそうです。そこが少なくなって次に有名になったのが瀬田川沿いの石山。その次に明治になって有名になったのが守山でした。東京帝国大学教授だった渡瀬庄三郎博士が明治23年（1890）に守山に来てホタルを観察し、明治35年（1902）に『学芸叢談―蛍の話』という日本最初とされるホタルに関する本を出版しました。この本には、当時の野洲郡守山村とその南の栗太郡物部村今宿（守山市今宿）はホタルがとても多く、出る季節に夜の田んぼ道を歩くにも提灯は必要ないと

いったことが書かれていたんですね。

渡瀬博士が泊まった今宿の旅館の主人だった江畑宋太郎という人が本の出た年から皇室へホタルの献上を始めました。明治44年（1911）からは守山小学校でも小学生が集めてきた3万匹ものホタルを毎年皇室に献上するようになります。

大正8年（1919）には守山町の青年団が宣伝のために大阪毎日新聞の本山彦一社長を招いてホタルが出る川筋を案内しました。本山社長は昆虫学者として有名だった名和靖に調査研究を依頼し、青年団にはホタルの保護を助言しました。

大正10年（1921）には町と青年団によって第一回「ホタルデー」（昭和10年から「蛍祭り」に名称変更）が催され、大津や京都からの見物客向けに守山小学校の校庭に1万匹のホタルが放たれました。

— そして、大正13年（1924）には守山町のゲンジボタル発生地が国の天然記念物第1号に指定されるわけですね。

古川 皇室へホタルを献上していた地域は全国各地にあったのですが、新聞などの利用もあってタイミング的に一番最初に知れ渡ったのでしょうね。それと、天然記念物の申請は、観光客による乱獲に頭を悩ませていた青年団が名和靖から「捕獲禁止の法的な根拠になる」と助言されたことが大きかったそうです。

そして昭和3年（1928）に

※1 カワニナ 東アジアの川や湖にすむ細長い巻貝。ゲンジボタルの幼虫のエサとなる。ヘイケボタルの幼虫はタニシなど他の巻貝も食べる。

※2 ヒメボタル ゲンジボタルやヘイケボタルよりも小型のホタルで、山地の水辺で見られる。幼虫は陸生で、陸生の小型巻貝やカタツムリを食べる。

ホタルを減らさないよう幼虫の川への放流を始めました。この時、指導にあたったのが、大正時代に青年団の副団長として名和靖の調査に協力していた南喜市郎でした。醤油屋さんの息子でまだ20代後半の青年でしたが、独自の研究でこの年、人工孵化に成功していました。

— ゲンジボタルの幼虫の食べ物カワニナだということも、南さんが初めて発見したそうですね。

古川 何を食べるか以前に、ホタルの幼虫が水の中にいるということすら学者も知らなかったんです。日本の昆虫学が黎明期だったということもあるのでしょうが、アメリカやヨーロッパなどにすむホタルの種類がほとんど陸生だったせいもあって、日本でもホタルの幼虫は陸にいて、カタツムリやナメクジを食べると考えられていたんです。

— 伊吹山の山頂にいるヒメボタルなどは幼虫が陸生のホタルなわけですね。

古川 南さんがヘイケボタル、ゲンジボタルの室内飼育に成功しなかったら、たぶん



守山市はたるの森資料館 館長

古川道夫さん

ふるかわ・みちお／1975年、草津市生まれ。認定NPO法人びわこ豊穡の郷理事。

↓日本で初めて天然記念物に指定後、設置された「源氏蛍発生地」の看板
（『守山市誌 自然編』より）





(左上) ホタルの人工孵化箱を作る愛蛭会の人たち。

1932年

(左下) 蛭祭りのため守山小学校の教室でホタル展示会を開いた南喜市郎。1935年

(下) 自宅の研究室でホタルの人工飼育をする南喜市郎。1955年ごろ

(3点とも『守山市誌 自然編』より)



↑館内展示のうちわ。少女が持っているのがホタル鑑賞用の蛭籠、少年が持っている笹や菜種殻を振り回して、ついたホタルを獲った

いま日本でホタルを飼っている人はいなかったでしょうね。なんにしても、大阪毎日新聞の本山社長に「お前、ホタルの研究をしろ」と言われたことをきっかけに、それに生涯を費やしたというかなり変わった人です。

かなり早い段階で人工飼育という方向に進むというのも、すごいですね。

古川 南さんが研究を始めた大正末から昭和初期には、すでに守山のホタルが減っていたせいでもあります。ホタル問屋が何軒もあって県外からの注文も受けていたから。「愛蛭会」の目的もそうでしたが、南さんも減少を食い止めるために、ホタルの増殖に取り組み、河川環境を守る必要性も訴えたんです。ホタルを通じた環境保護の先駆けみたいな人です。当時「環境」という言葉を自然環境という意味で使っている人はいなかったような時代に。

当時の写真を見ると、研究だけでなく、ホタルの生態に関する知識の普及にも努めておられて、博物館の学芸員のようでもあります。館の収蔵品には、南さんの研究資料や遺品も含まれているのですか。

古川 6年ぐらい前までは館内で常設にしていたのですが、可視光線などが入ってくる状態だったので、守山市公文書館の収蔵庫にすべて移しました。代わりに彼の功績については展示パネルで紹介しています。

ホタルの名所という山間部の田舎をイメージしてしまうのですが、守山の場合は中山道の宿場町として人家も多かった平野部の川であることが意外でした。

古川 県内最長の川である野洲川がすぐ北にあり、中流部から流れてきた川の水が下流では伏流水になるんだそうです。ですから守山は湧き水が豊富で、いくつもの細い川が流れています。それがホタルのすめる環境が多い理由だったと考えられます。

南さんらの努力のいかにもなく、戦後はさらにホタルの減少が進むわけですね。守山の都市化は、発展であつたわけですが。

古川 戦後も昭和25年（1950）ぐらいになると、京都や大阪の料亭などから守山のホタル問屋にホタルの注文があるようになって、同年には「蛭祭り」も再開され、



守山駅周辺の空中写真
(国土地理院サイトより。
昭和22年は米軍撮影)



京阪神からの観光客で賑わいました。
ところがそのわずか3年後にはホタルが
ほとんどいなくなり、「蛍祭り」も昭和31

ホタル復活への取り組み

——ホタルがいなくなったのは、工業団地
などができて、水質悪化が原因ですか。

古川 いえ、複合的な要因だと思っています。
河川の汚濁^{おどく}、人間による乱獲、農薬の使用、
それから少し後になりますが、野洲川の河
川改修と守山市の人口増加など。あらゆる
要因がすべて関わっていると思います。こ
れはホタルに限らず、タガメなど、いろい
ろな生き物が減っているのです。

ホタル復活に向けて、守山市が本格的に
取り組んだのは、昭和54年（1979）に
始まった「ホタルのよみがえるまちづくり
事業」からです。

——琵琶湖も富栄養化が問題になっていた
時期ですね。

この事業の一環で、昭和55年に鳩の森公
園^{ほとり}というところに人工河川とホタルの飼育
室や研究室が設けられ、いろいろな試みを
始めました。市内各所の河川整備や幼虫の
放流も始まっています。

それから10年後の平成2年（1990）
に当館が開館しました。昭和63年度から平
成元年度にかけて竹下登内閣が全国の市
町村すべてに使い道自由の1億円を交付し
た「ふるさと創生事業」というのがありま
したよね。守山市は市民からの提案を審議
した結果、この資料館と新たな人工河川を
整備したんです。

また、守山市は平成12年（2000）に「守
山市ほたる条例」を施行して、もともと守
山ボタルが見られた守山駅周辺の川と鳩の
森公園内や市民運動公園内に設けたホタル
河川など9つの川を保護区域とし、ホタル

年（1956）を最後に開催されなくなり
ました。昭和35年には、とうとう天然記念
物地指定が解除されてしまっています。

の幼虫と成虫の捕獲、幼虫のエサになるカ
ワニナの捕獲、川を汚す行為を禁止しまし
た。平成25年（2013）には条例が改正
されて、保護区域が市内全域の河川になっ
ています。

——古川館長が理事を務められ、館の指定
管理者^{しやうさくしや}になっているNPO法人びわこ豊
穡^{ほうさく}の郷^{きょう}はどのあたりからホタル復活に関
わってきたのですか。

古川 駅周辺の発展と人口増加にともない、
守山市を流れる川の河口部にあたる赤野井^{あかのい}
湾は琵琶湖でも特に富栄養化が進み、アオ
コも発生するほどになっていました。平成
8年（1996）に地域住民と行政、企業
などによる「豊穡の郷赤野井湾流域協議
会」が発足し、翌年から河川の水質調査と
水生生物調査などをおこなうようになりました。
この協議会では琵琶湖や河川の水質改
善とともに、守山のホタルの復活も目標に
掲げていたんです。

守山駅方向から運動公園の南東側の道を
はさんだ向こう側まで流れてきている目田^{めだ}
川は、市街中心部の水を排水するためにつ
くられた準用河川^{じゅんようがわ}なのですが、当時、景観
上もひどい状態になっていました。ここも
協議会が20年ほど前から整備して、ホタル
の幼虫を放流したりしてきました。

この協議会が平成17年（2005）にN
PO法人化して、「NPO法人びわこ豊穡
の郷」となり、同年にこの館の運営に指定

※3 準用河川 一級河川及び二級河川以外の
「法定外河川」のうち、市町村長が指定し
管理する河川。

管理者制度が導入されたので入札に参加し、翌年度から運営しているという形です。

古川さんは、もともとは水質改善のための調査などに参加しておられたんですね。

古川 はい、私は大学では雲仙岳うんぜんだけなど火山の研究をしていた人間で、理系ではありませんが、ホタルなどの昆虫が専門というわけではありません。もともと一般企業に勤めていた時に理事になって、活動に参加していました。その会社をやめる必要ができた時に、「それなら、手伝ってくれないか」と言われて来た格好です。

豊穰の郷は現在、個人会員が300名ぐらいいて、守山市内の方は約7割、それに守山市内70の自治会を含む100の団体が加入していて、年4回の水質調査などの活動をしています。

館の活動は、どういった種類があるのでしょうか。

古川 資料館の活動は、まずホタルに関する文献や資料の収集、次にゲンジボタルの飼育研究です。幼虫や成虫を飼っています。それから運動公園内を流れる「ほたる河川」にホタルが居着いてくれるようにするための研究、幼虫の放流、市内自治会と市内の

野洲川改修などで変化した水利用

目標であるホタルの復活は成功したのですか。

古川 よく尋ねられるのですが、復活をどの程度のレベルに求めるかで答えは変わります。守山ホタルが有名だった100年以上も昔のレベルに戻ることを復活というのなら、人口が10倍以上に増えて、まちの構造、河川の構造も昔とは異なる現在、不可能でし、そこまですることに意味があるのかという話になります。

ですから、数の回復を目指すすると、



(上) 赤野井湾流域の川の水質調査、1997年
(下) 同じく水生生物調査、1999年
(2点とも認定NPO法人びわこ豊穰の郷提供)

皆さんへの提供、それに環境学習などの普及啓発事業、あとは森の管理ですね。

来館者は、市内のお子さん連れなどになるのですか。

古川 館があるのは、昭和56年(1981)に県下で開催されたびわこ国体の前年に整備された市民運動公園の中なので、球場やグラウンドを使ったソフトボールや野球、サッカーの大会などがあると、県外の人も来館なさいます。お子さんの試合が終わるのを待っているお父さんやお母さんが来館なさるのが平常の時期です。

もちろん一番多いのはホタルの飛翔期間中で、コロナの前は外国からも来館なさっていました。

予想外に宣伝効果がある立地ですね。

まったくできていません。昔は何百万匹という単位で発生していましたが、いまは1シーズンに1万匹にも届いていません。それでも、いなくなった時代に比べると、いまはどこでも数が少ないけれども、飛んでいることは確かなので、「復活した」とも言えます。つまり見る人次第ということですね。

昔ほどではないにしても、復活した理由は何だったのでしょうか。

古川 一番簡単な説明は、下水道の普及に

よって水質が改善したためです。豊穰の郷による平成9年(1997)から12年までの水質調査でも、窒素ちっそとリンの値は明らかに減少していました。この間に市内で起こっていたのは下水道の普及率とトイレの水洗化率の向上でした。ですから、川の水がきれいになったのは事実だと思えます。しかし、本当にそうなのかと言われたら、よくわからないんです。

ホタルがすむ川は、単にきれいなだけでもいけないと読んだことがあります。

古川 それはすでに南さんが本に書いておられますね。ホタル復活のために井戸を掘って水を流すといったこともやられたのですが、掘られたばかりの地下水は何も栄養がふくまれていないので、生き物には向きです。

そうした例を除いて、守山の川はここがきれいかといえば、滋賀県は富栄養化防止条例があるので全国的に見たら水質の面ではどこもかなりきれいなんです。

昨年(2021)のホタルが飛ぶ季節1か月間に調査した守山市内の飛翔数をまとめたものが、こちらのマップ(次ページ左上)です。ホタルが飛んでいることが確認されたのは、守山駅周辺から赤野井湾にかけての私たちが放流している地域です。

市街地より北の田んぼが多い農村部にも放流したら増えそうに思いますが。

古川 これは地域の水利利用の形を反映していて、農村部の川は農業をやるときしか水が流れないからです。

一番北の琵琶湖岸あたりはまた別なのですが、中部あたりまでは昔、野洲川の下流が北流と南流の2本に分かれていたところ、やはり湧き水が多くあったそうです。ですから、この辺にもホタルがいました。

けれど、当時の野洲川は10年に1回ぐら

特集 | 守山市はたるの森資料館

いの割合で、家屋が流出したり死者も出るような水害が発生していたので、真ん中に新放水路をつくる大改修がおこなわれ、昭和56年（1981）に通水しました。

そして、これにともない下流一帯では圃場整備と農業用水として琵琶湖の逆水灌漑を利用する改良事業がおこなわれました。

ポンプで揚げた水を流している用水路には田植えから稲刈りまでの灌漑期にしか水が流れないんです。環境用水として少し水を流しているところもありますが、流量は少いです。

——野洲市から彦根市にかけての琵琶湖岸の田もほとんど逆水灌漑ですね。

古川 当館から南の一帯にしても、農業用水は野洲川の石部頭首工から供給してもらう形で、本来灌漑期以外は水がなくなるところをあえて一年中流してもらったり、少なくなった伏流水（地下水）をくみ上げるポンプを市がたくさん設置して、常時、水がある川をつくっているんです。多額の電

気代を計上して。

——それはホタルのために。

古川 いえいえ。防排水としてだったり、潤いのある河川景観をつくるのが目的ですが、そのおかげもあって、守山市内でホタルは飛べるんです。

私たちは逆水灌漑になった地域での聞き取り調査もおこなっています。お年寄りの中に、「確かに野洲川の南流を取って洪水で人が死ぬことはなくなったけれども、水はつけれないしな」とおっしゃる方がいて、確かにそのとおりだと思います。

こういう状況を話すと、「昔みたいな環境に戻せ」という人も出てくるのですが、先人たちはものすごく苦労して洪水や干魃（かんばつ）がなくなるように圃場と水利用を整えてきたんです。それをひっくり返すのかという話ですね。私はそれは現実的じゃないと思っています。

——ホタルの幼虫の飼育についても大変そうですね。



↑守山市内の2021年5月10日～6月9日のホタルの飛翔状況
(認定NPO法人びわこ豊穰の郷作成)



古川 どれだけの数を増殖するかというのが一番の問題なんです。当館の場合、何万匹という幼虫を抱えないといけない。それも、現状では完璧ではないので、生まれたとしても、多くが死んでいきます。その死ぬ要因も研究しないといけないのですが、生存率が上がったら上がったで、今度は獲ってくるカワニナの数が増えます。

南喜市郎さんの時代に比べて道具や技術は段違いに向上しているので、1年で終齢幼虫という蛹になる大きさまで成長させられるんです。

幼虫1頭が孵化してから終齢幼虫になるまでには、約20個のカワニナを食べるといわれています。ホタルの幼虫が1万匹だった場合、20万個のカワニナが必要という話

◀右上▶ カワニナを食べるゲンジボタルの幼虫
(左上▶ 館内で飼われているカワニナ。植物はエサとして置かれているもの)

(下▶) ゲンジボタルの幼虫が孵化してから終齢幼虫になるまでに食べるカワニナを並べた展示

になって、それをどこに獲りにいくのか。

——展示にもありますが、幼虫のサイズにあったカワニナを用意するのも難しそうですね。カワニナは養殖できないのですか。

古川 それも当館の研究の一つなのですが、感覚的には、カワニナの増やし方は、ゲンジボタルを増やすよりはるかに難しそうですね。そもそもカワニナの増殖を研究している専門研究者の論文は、見たことがありません。ホタル愛好家がかワニナの研究もなさる例はあるのですが、なかなか役に立つ知見というのは出てきません。

——自然にいるカワニナを獲ってくると、その生態系がという問題もありますね。

古川 はい。カワニナを大量に捕獲するということは、それだけホタルの増殖のためにカワニナがふだん存在する生態系に負荷をかけるということです。いまの守山市内の川で、1か所から何万個と獲れるほど発生している川はありません。正直なところ、「こんな状況でこれ以上続けるのは、問題

だと思えますよ」というのが、いまの私の立場ですね。

すると、「カワニナが川に増えたらいいわけですね」という意見も出るのですが、ここまで高度に治水と都市化が発達した都市河川で、それは無理です。カワニナを飼うために、川にエサを沈めればというアイデアも出ましたが、それって琵琶湖条例に反しているでしょう。

——それこそ富栄養化ですね。

古川 ですから、これはもう単にホタルを育てて放流する問題じゃなくて、まちづくりに直結する話なんです。滋賀県は環境先進県として進んでいるなかで、まちのイメージにも関わるし、時代遅れなことをするべきではありません。

当館は市の施設で、私は雇われの身なのですが、ホタルの復活と言うけれど、「どこを目標にしているのかわからない」面があります。現状で満足するのであれば、これ以上の環境負荷は考えものです。

3年ぶりに「パーク&ウォーク」開催決定

——今年はホタルシーズンに開催されていた「守山ほたるパーク&ウォーク」(11ページ参照)が3年ぶりに復活するそうですね。

古川 最初は平成16年(2004)に「ホタルパーク&ライド」という名前で始まり、3年後に「パーク&ウォーク」に改称されました。守山市内で一番大きな駐車場がある市民運動公園に車を停めて、あとは歩いてホタルを見に行くのださという催しです。守山駅前と市民公園などの指定区間にはシャトルタクシーも運行されます。

そもそもこの行事を始めたのは、警察と自治会からめちゃくちゃ怒られたからでした(苦笑)。大量増殖が成功して、成虫が1万頭ぐらい飛んだ年があったんです。そ

れが口コミで広がって、ちょうど帰宅時間帯の道路が大渋滞、「なんで自宅に帰るのに3時間もかかるんや」と、苦情が殺到しました。対策として、路駐は絶対禁止、見たい人は車を運動公園に停めて、あとはシャトルバス(当時)か徒歩で行ってくださいということになりました。

当館にとっても最大の行事ですが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、一昨年と昨年は中止していたんです。

——ホタルという点、6月という感覚があるのですが、5月下旬の開催なのですね。

古川 昭和45年(1970)、いまから52年前に出版された南喜市郎さんの著書の中では、「わがまち守山のホタルの見頃は6

月中旬です」と書かれています。ですから本来その感覚が正しかったのですが、この30年の温暖化でかなり前倒しになっています。いまは最盛期が5月の最終週です。つまり、この半世紀で半月早まりました。サクラと一緒に。

——開花予想みたいに事前に予想する必要もあるわけですね。

古川 これまでに当館が取ってきたデータから判断すると、ちょうどいま(取材時)、3月下旬から4月いっぱい位の気温でほぼ決まります。生き物ですから他にも条件があるのか、完璧に見事な相関というほどでもないですが。

——守山にホタルを見に行く場合の注意点などございますか。

古川 ホタルを見るなら、明かりは最小限にしてください。スマホで撮影時にフラッシュをたいたり、懐中電灯を振り回したりするのはおやめください。それだけです。——本日はお忙しいところ興味深いお話をありがとうございました。

(2022・4・14)



↑「守山ほたるパーク&ウォーク」のようす
(認定NPO法人びわこ豊稔の郷提供)

ほたる河川

今回紹介する守山市ほたるの森資料館の大切な品は、集めたたくさんの方々の資料ではなく、ゲンジボタル飼育の道具でもなく、ましてや標本でもありません。一番重要で大切なのは、当館の横を流れている人工の川であるほたる河川です。この川は資料館の建設とともに造営され、完成してから32年がたちました。この間、かつ

守山市ほたるの森資料館 館長 古川道夫

て守山からいなくなったゲンジボタルをこの川に定着させようとしたゆまひな努力がつけられてきました。私の知る限り、全国で人工の河川にゲンジボタルが定着した事例は1件だけです。たとえ1件でも事例があるならここでもできると私は確信しています。

この川の水源は井戸水で、水中ポンプによりくみ上げられています。川は当館のある守山市民運動公園の中をぐりと約600m流れています。守山市にはゲンジボタルを保護する条例である守山市ほたる条例があり、市内全域を保護区域としていますが、ここはそのなかでも特別保護区域に指定された唯一の場所でもあります。

川は上流側からAゾーン、Bゾーン、そしてCゾーンの三つの区間に分けられ、それぞれ異なった役割をもっています。また川の周辺には旧野洲川から移植された樹木等が植えられ、「ほたるの森」と称しています。鎮守の森以外に大きな森のない守山市において大切な場所であり、同時にここだけの特異な景観を呈しています。全国的にもホタル類の研究のための人工河川としてはこれ以上大規模なものはないと思います。

近年は老朽化で堤防に穴があいて水漏れしたり、護岸がやせ細ってしまったたり、外来生物の侵入を受けたりとさまざまな事態が発生して、この川にゲンジボタルが自然発生しているか調べるのは大変です。しかし謎が多く、条件が厳しい分にはやりがいがあります。このほたる河川にゲンジボタルが自然発生する日はかなり先の未来でしようが、長い取り組みの果てにゲンジボタルがすみ着いてくれるように、生息環境の調査研究は続いていきます。



京都地名研究会主催「地名ウォーク in 大津」 大津京と周辺の古代地名を歩く

6月18日(土) 9:00～12:00

見学先 南滋賀廃寺、錦織遺跡(大津京跡)、
穴太廃寺 他

講師・案内 吉水眞彦氏(前大津市埋蔵文化財センター長)

集合・解散

JR湖西線「大津駅」改札口前9:00集合
京阪電車「穴太駅」12:00到着・解散

歩行距離 約5km ※マスクの着用をお願いします。

雨天の場合は中止します(小雨決行)。

参加費 500円

(資料代、京都地名研究会会員は無料)

申し込み締切 6月15日(木)

※ご希望者数によってはお断りする場合もあります。

申し込み先 kyotochimei@gmail.com(事務局)

もしくは、携帯080-5320-9044(小寺)

いんげんぜん だいおんき 隠元禪師 350年大遠諱記念展 おうばく 黄檗の華

5月21日(土)～7月3日(日)

栗東歴史民俗博物館



萬年寺山門(栗東市小野)

江戸時代前期の近江には、戦国時代に荒廃した寺院が多く、黄檗宗の僧たちは、これらの寺院の堂宇や寺地を譲り受けて再興することで、黄檗宗を広めていきました。現在、栗東市内にある萬年寺(小野)と円光寺(北中小路)という2つの黄檗寺院もこのような流れの中で開かれています。

本展では、隠元禪師350年大遠諱にあたり、萬年寺に伝わる文化財をはじめとして、栗東周辺に花開いた黄檗文化を紹介します。

入館料：無料

休館日：月曜日

※新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から
事業を延期または中止する場合がございます。

お問い合わせ先：TEL 077 (554) 2733

〈イベント〉

第72回全国植樹祭サテライト会場 6月5日(日)

博物館のホールで甲賀市「鹿深夢の森」で開催されている全国植樹祭の様子の生中継を行います。

また、館内各所で育苗ミニパークやドローン操縦体験、はしかけグループによるワークショップなどを行います。

会場：滋賀県立琵琶湖博物館ホール、

うみっこ広場、その他

参加費：無料(事前申し込み不要)

お問い合わせ先：TEL 077 (568) 4811

春季企画展 いんげんりゅうき おんき 隠元隆琦 350年遠諱 おうばく 黄檗インパクト

開催中～6月12日(日)

観峰館

黄檗宗の宗祖・隠元隆琦の来朝は、仏教のみならず書画芸術の分野においても大きな「インパクト」をもたらしました。

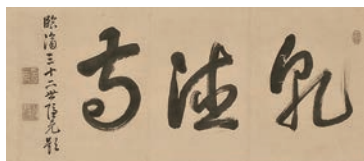
本展では、隠元禪師350年遠諱の節目に、東近江地域所縁の寺院の所蔵品を通して、その影響を探ります。

入館料：一般500円、高校生・学生300円、

中学生以下無料

休館日：月曜日

お問い合わせ先：TEL 0748 (48) 4141



隠元隆琦筆「乾徳寺」江戸前期(東近江市・乾徳寺蔵)



「隠元騎獅像」隠元隆琦賛・喜多長兵衛画(東近江市・正瑞寺蔵)

企画展 生誕 150年 山元春挙

開催中～6月19日(日)

滋賀県立美術館



山元春挙《瑞祥》1931年(足立美術館蔵)

明治4年(1872)滋賀県膳所町に生まれ、京都画壇の重鎮となった山元春挙の画業を一望します。

円山派の写生画の流れをくみ洋画の写実主義に心を寄せ、近代日本画を創造した一人の画家の世界について、各地の美術館が所蔵する代表作とともに、地元に残された貴重な作品・資料を集めて紹介します。

入館料：一般1200円、高大生800円、

小中生600円

休館日：月曜日

お問い合わせ先：TEL 077 (543) 2111

ギャラリー展示 森へ行こう、森と生きよう。

開催中～6月5日(日)

滋賀県立琵琶湖博物館

今年滋賀県で開催される第72回全国植樹祭の一環として、森のすこさ、森へ行く楽しさ、木のすこさを、県内のおすすめの森の紹介パネルや木製品の展示なども活用して紹介しています。

会場：企画展示室

料金：無料(常設展示観覧券が必要)

事前予約へのご協力をお願いします

新型コロナウイルス感染症が収束するまでは来館には事前予約が必要です。また、感染状況により、開館状況が変更になることがあります。当館ウェブサイトで最新の状況をご確認の上、ご来館ください。

休館日：月曜日



みやんせ きかんせ わらわんせ

山里 湖 生き物 マキノ方言語り

原作 真田かずこ／翻案・作画 伊丹俊次
B5横並製本 総30頁 頒価1000円
問合先 高島市マキノ町石庭361(著者)
マキノの自然の移り変わりについて
生き物たちが方言で語る紙芝居を絵本
としてまとめた。(2022.3.20刊)



滋賀県児童図書研究会50周年記念誌 未来にバトンをつなぐ

滋賀県児童図書研究会 編
B5判並製本 総152頁 非売品
問合先 高島市マキノ町西浜953-17(事務局)
1971年設立の滋賀県児童図書研究会は、昨
年で50周年を迎えた。記念寄稿と旧会員・現
会員からの寄稿を収録。(2022.3.30刊)

ビジネスパーソンへ 仕事を愉しくするために80通のメール

原 清 著
B6判並製本 総208頁 1870円(税込)
経営コンサルタント歴45年の著者が、人
材育成、ビジネスのプロとは、リーダーシッ
プなどの視点から、それらの問題への考え
方をそれぞれ数ページで解説。



柴原南町二五〇〇年の歴史

武村勘一 著
A5判並製本 総144頁 非売品
問合先 東近江市柴原南町725(著者)
出土した縄文時代晩期の甕、宮溜池をめぐ
る明治の訴訟、八日市飛行場、名神高速道路
など、布引山の西裾にある東近江市柴原南町
の歴史を綴る。(2022.4.8刊)



2022(第19回) 守山ほたるパーク&ウォーク

地元ガイドが案内する 守山ホテルを知らう！ウォーキング

集合場所 守山市ほたるの森資料館前(市民運動公園)
解散場所 守山駅西口 ロータリー前
定員 先着20名 参加費 500円 歩行距離 約4km

守山市の観光ガイドさんとウォーキング編

5月25日(水) 16:00～18:30(集合15:45)
ノルディックウォーキングで颯爽と！編
5月28日(土) 16:00～18:30(集合15:45)
6月5日(日) 16:00～18:30(集合15:45)

コース ほたるの森資料館→目田川モデル河川→
金森湧水公園→三津川散策路→西藤小児科医院前
→ほたる橋→ほたる地蔵→ほたるモニュメント→
旧駅前通りモニュメント→守山駅西口
※ノルディックウォーキングはポールが必要になります。ポー
ルレンタル(無料)の有無を参加申込時にお伝えください。

お申し込み先

守山ほたるパーク&ウォーク実行委員会
(認定NPO法人びわこ豊穣の郷事務局内)
TEL 077(583)8686 FAX 077(558)5007
※当日は必ずマスクを着用し、検温・手指消毒にご協力ください。
体調不良の時は、当日の参加をひかえてください。なお、緊
急事態宣言およびまん延防止重点措置が発令された場合は中
止いたします。

申し込みフォーム

<https://forms.gle/CJqeYUzhkmiE1ihz6>



「ほたるシャトルタクシー」をご利用ください

運行日 5月22日(日)・28日(土)・29日(日)
19:30～22:00

停車場所(乗降口)

- ①守山駅西口
- ②守山タクシー株式会社前(三津川付近)
- ③守山市民運動公園第3駐車場

料金 降車時に一人1乗車につき100円の「環
境協力金」をいただきます。往復でご利用の場
合は片道ずつ降車時に100円を頂戴します。未就
学児は無料

台数 一般送迎用タクシー4台(28日は6台に増便)
介護用タクシー1台

お車で越しの方へ 駐車場のご案内

5月22日(日)・28日(土)・29日(日)の3日間22:00まで
①守山市民運動公園駐車場 料金 無料
②県立総合病院総合駐車場 料金 無料

楽和太鼓演奏

5月22日(日)・28日(土)・29日(日)
各日19:00～19:30

星空映写会

5月22日(日)・28日(土)・29日(日)
各日20:00～21:30

場所 守山市民運動公園内円形広場

テーマ展 軍記物語の世界 —語り継がれる名場面—

開催中～6月20日(日)
彦根城博物館



「平治物語」(部分、彦根城博物館蔵)

平家物語など、戦を題材とした軍記物語。
そこに描き出された登場人物の武勇や悲話
などは、後世の美術工芸品や芸能に大きな
影響を与えました。

本展では、軍記物語にまつわるさまざま
な作品を、館蔵品の中から紹介します。
入場料: 一般500円、小中学生250円
会期中の休館日: なし
お問い合わせ先: TEL 0749(22)6100



北近江地名考

土地に息づく歴史

太田浩司 著

四六判並製本 総212頁 1980円(税込)

中世から現代に至るまでの変遷を追うと、地名は必ずその指し示す範囲が人間の必要に応じて変化してきた。北近江三郡の地名にひそむ歴史を、さまざまな視点から探る。

写真集 湖畔通信

中島省三／福家俊彦 企画編集

A5変形並製本 総192頁 2200円(税込)

総本山三井寺の福家俊彦長史に毎週「湖畔通信」として届くフォトレーター。直感的な視点と絶妙の構図で琵琶湖や大津の街などの一瞬を切り取った写真と短く添えられた秀逸なメッセージが一冊に。



ぼくら滋賀っ子

おひさまいろの宝箱

滋賀県児童図書研究会 編著

A5横変並製本 総152頁 1540円(税込)

コロナ禍の学校でのシゴのこころの動きを追った「イエローマスクマン」、地元の太鼓クラブで習い始めた純の挫折と友情を描いた「仰木たいこ」など12編を収録した童話集。

コロナ時代を生き抜く自治体経営論

横山幸司 編著

A5判並製本 総240頁 2200円(税込)

2021年度に滋賀大学で開講された「自治体経営塾」から講師陣の基調講演義録を基に、書籍用の書き下ろしを加え再構成。行政経営や地域経営に悩む自治体担当者必読の一冊。



表紙写真 ほたる河川でのホタルの飛翔（守山市ほたるの森資料館提供）

編集後記 守山市ほたるの森資料館では「最終的には見たいときにいつでもホタルが見られるようになったらいい」という南喜市郎の思いを実現させるため、ゲンジボタルが羽化する時期をコントロールする研究も進めています。今年3月には通常より2か月半も早い羽化に成功しました。古川館長によると、「まだ半分ぐらい成功したという段階」とのことですが、館に行けば季節はずれでもホタルの光が見られる日が来るかもしれません。



琵琶湖環境科学研究センターブックレット2

GISと写真測量を活用した環境保全

東善広・古川道夫 著

A5判並製本 総88頁 1980円(税込)

水質調査の可視化をスピードアップした守山市の市民参加型GIS（地理情報システム）、河川下流の土砂の動きを探りアユの産卵環境を改善する試験事業など、先進的な活用事例を紹介。

比叡山の花

山野草・樹木の花505種

澁田義行 写真・文

A5判並製本 総176頁 2200円(税込)

京都府と滋賀県にまたがる比叡山の山野草や樹木の花505種のほか、果実などをカラー写真で紹介。観光開発や大型台風被害の影響などについても解説。



ひよしみた 日吉御田神社・宮番の記

須藤護 著

B6判並製本 総264頁 2310円(税込)

大津市坂本の日吉大社の境外社の一つ、日吉御田神社の当家を務めることになった筆者が、宮番としての一年の経験を通して、どのような形で神社の管理と祭事の運営が行われたのかを紹介。イラストと写真多数掲載。

ながはまのお庭

特定非営利活動法人 まちづくり役場 編

A5判並製本 総144頁 2200円(税込)

2013年から4号まで発行された冊子「ながはまのお庭」が増補改訂のうえ一冊に。長浜をこよなく愛する市民の目線で民家の知られざる庭を中心に長浜市内の約100件を紹介。



Duetの定期購読をご希望の方は、下記までお申し込みください。

〒522-0004 滋賀県彦根市鳥居本町655-1

サンライズ出版株式会社 Duet 編集部

TEL (0749) 22-0627 FAX (0749) 23-7720
(振替) 01080-9-61946

インターネットでDuetがお楽しみいただけます。

<http://www.sunrise-pub.co.jp/>

お申込先